



やぐら通信

『いそがばまわれ』 (チャレンジしよう。経験は宝物。)

1 学期をふり返って

「もう夏休みです!!」4月にスタートした令和5年度ですが、毎日いろんなことがありました。あっという間に過ぎた感じがします。

学校では、以前に比べて元気の良い挨拶が聞こえてくるようになりました。中には、「校長先生より先に挨拶するんだ!」と朝だけでなく廊下で出会っても私の姿を見たら「こんにちは」と気持ちの良い挨拶をしてくれる子もいます。最近、廊下で出会った先生やお客さんに「おはようございます」「こんにちは」と児童から挨拶をする声がよく聞こえてきます。

挨拶だけではありませんが、このように、子どもたちは、矢倉の児童につけたい力「自ら行動(発信)する力」をつけてきているなど感じています。

しかし、「自分の思いを言葉にして伝える」ということに対して、気になる言葉が聞こえてきます。心が温まる嬉しい「ぽかぽかことば」ではなく、人を攻撃し嫌な思いにする「ちくちくことば」です。日常のゲームやテレビ、大人の話す言葉の影響でしょうか…。当たり前のように使われている「ちくちくことば」は「これって使いたくない」と思わない限り言葉の重みも考えず使ってしまうのではないのでしょうか。気になる言葉は日ごろから「その言葉は・・・」と、聞き流してしまわないように、聞こえてくる言葉にアンテナを張って、気になるときは話をしたいと思います。「ちくちくことば」が聞こえたら、ご家庭でも地域でも言葉の重みについて話ができるチャンスです。自分の気持ちや思いを相手に伝わる言葉にしていきたいですね。子どもたちも私たち大人もつけたい力です。

話は変わります。随分前の話になりますが、5月3日(木)矢倉のサンヤレ踊りを見に行きました。地域で行事を盛り上げ、多くの方が来ておられました。昨年、近江湖南のサンヤレ踊りがユネスコ無形文化遺産に登録され、矢倉小学校では、「全校を上げてお祝いしたい、もっとサンヤレの事を知りたい」とサンヤレ踊りに関わっておられる方々をお招きして学習をしました。矢倉に暮らす子どもたちにとって、とても貴重な学びとなりました。今年は、その矢倉のサンヤレ踊りを実際に見ることができた子どももたくさんいたことと思います。今年の夏は、コロナの状況もいろいろと緩和され、地域でのイベントや行事が多く開催されることと思います。ぜひ、地域での行事に積極的に参加して、地域の一員として活躍してほしいと思います。夏休み明けには、たくさんのチャレンジや思い出話を楽しみにしています。

校長 石井 千鳥



「夏休みチャレンジ」

今回は、七夕の短冊に「夏休みのチャレンジ」を書いてもらいました。校長室前の掲示板にはたくさんの「夏休みのチャレンジ」が並んでいます。

